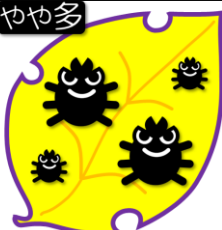
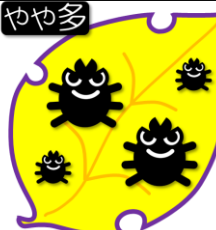
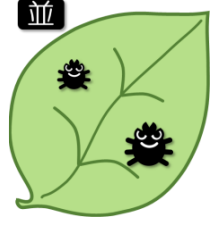
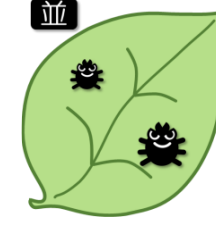


令和 7 年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第10号（果樹）

令和 7 年 9 月 18 日 発表（対象期間：令和 7 年 9 月 18 日～）

1-（1）		かんきつ病害虫の現況と予報（概要）																
病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項															
かいよう病	やや少 	並 	●発病した葉や枝は伝染源となりますので、速やかに樹上から除去するとともに基幹防除を徹底しましょう。 ●気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。 ●ミカンハモグリガ食害痕から感染しやすいので、食害された夏秋梢は切除しましょう。															
黒点病	やや少 	並 	●伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。 ●秋期に降雨が続く場合は追加防除を実施しましょう。 ●追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。															
ミカンハダニ	やや多 	やや多 	●果実への寄生により、外観品質を損ないますので、基幹防除を徹底しましょう。 ●薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。															
ミカンサビダニ	多 	多 	●9月下旬～10月上旬の基幹防除を徹底しましょう。特に8月下旬の基幹防除を実施していない場合は、速やかに行ってください。 ●裾なり、内なりの果実での発生に注意しましょう。															
ナシマルカイガラムシ	やや少 	やや少 	●移動性が低く圃場の一部に集中して発生することが多いため、寄生部位を中心に周辺の枝葉果実の状況を確認し、見つけ次第捕殺します。 ●マシン油乳剤による越冬期防除の準備を行いましょう。															
ヤノネカイガラムシ	並 	並 	【現況・予報の区分について】 「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。 <table><tr><td>「多」</td><td>:</td><td>1 番目（最多年）と同程度以上</td></tr><tr><td>「やや多」</td><td>:</td><td>2 ～ 3 番目と同程度</td></tr><tr><td>「並」</td><td>:</td><td>4 ～ 7 番目と同程度</td></tr><tr><td>「やや少」</td><td>:</td><td>8 ～ 9 番目と同程度</td></tr><tr><td>「少」</td><td>:</td><td>10 番目（最少年）と同程度以下</td></tr></table>	「多」	:	1 番目（最多年）と同程度以上	「やや多」	:	2 ～ 3 番目と同程度	「並」	:	4 ～ 7 番目と同程度	「やや少」	:	8 ～ 9 番目と同程度	「少」	:	10 番目（最少年）と同程度以下
「多」	:	1 番目（最多年）と同程度以上																
「やや多」	:	2 ～ 3 番目と同程度																
「並」	:	4 ～ 7 番目と同程度																
「やや少」	:	8 ～ 9 番目と同程度																
「少」	:	10 番目（最少年）と同程度以下																
イセリアカイガラムシ																		
ツノロウムシ																		
ルビーロウムシ																		

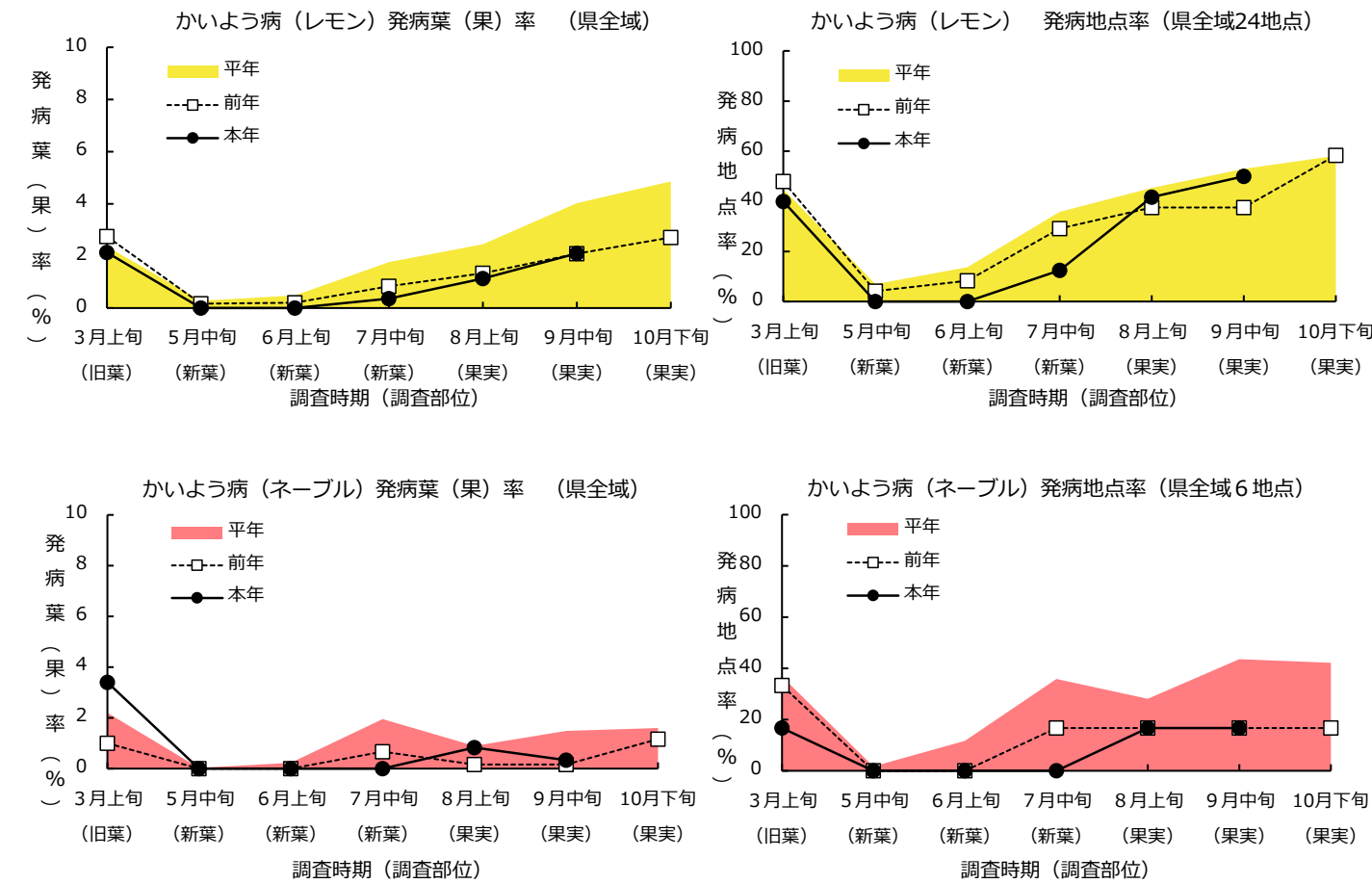
①かいよう病	現況	やや少	予報	並
予報の根拠	●巡回調査での発病果率は、レモンで2.1% (平年4.0%)、ネーブルで0.3% (平年1.5%) であり、合計1.7% (平年3.5%) と平年よりやや少ない発生でした。			
(+) : 多発要因	●発生地点率は、レモンで50.0% (平年53.0%)、ネーブルで16.7% (平年43.6%) であり、合計43.3% (平年51.1%) と平年よりやや少ない値でした。			
(±) : 平年並	●向こう1か月の降水量は、多い確率が40%です (+)。			
(-) : 少発要因				

【防除上の注意事項】

- 発病した葉や枝は伝染源となりますので樹上から除去し、ほ場外に持ち出しましょう。
- 気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- ミカンハモグリガ食害痕から感染し、果実へ伝染する恐れがあるため、食害された夏秋梢は切除しましょう。
- 銅剤散布に当たっての注意事項
 - ・マンネブ剤、マンゼブ剤は混用せずに散布し、これらの剤の散布間隔は7日以上空けます。
 - ・無機銅剤 (コサイドなど) の散布を行う際には、クレフノン (希釈倍数:200倍) を加用します。
 - ・高温時の散布を行うと薬害を生じやすいので注意しましょう。



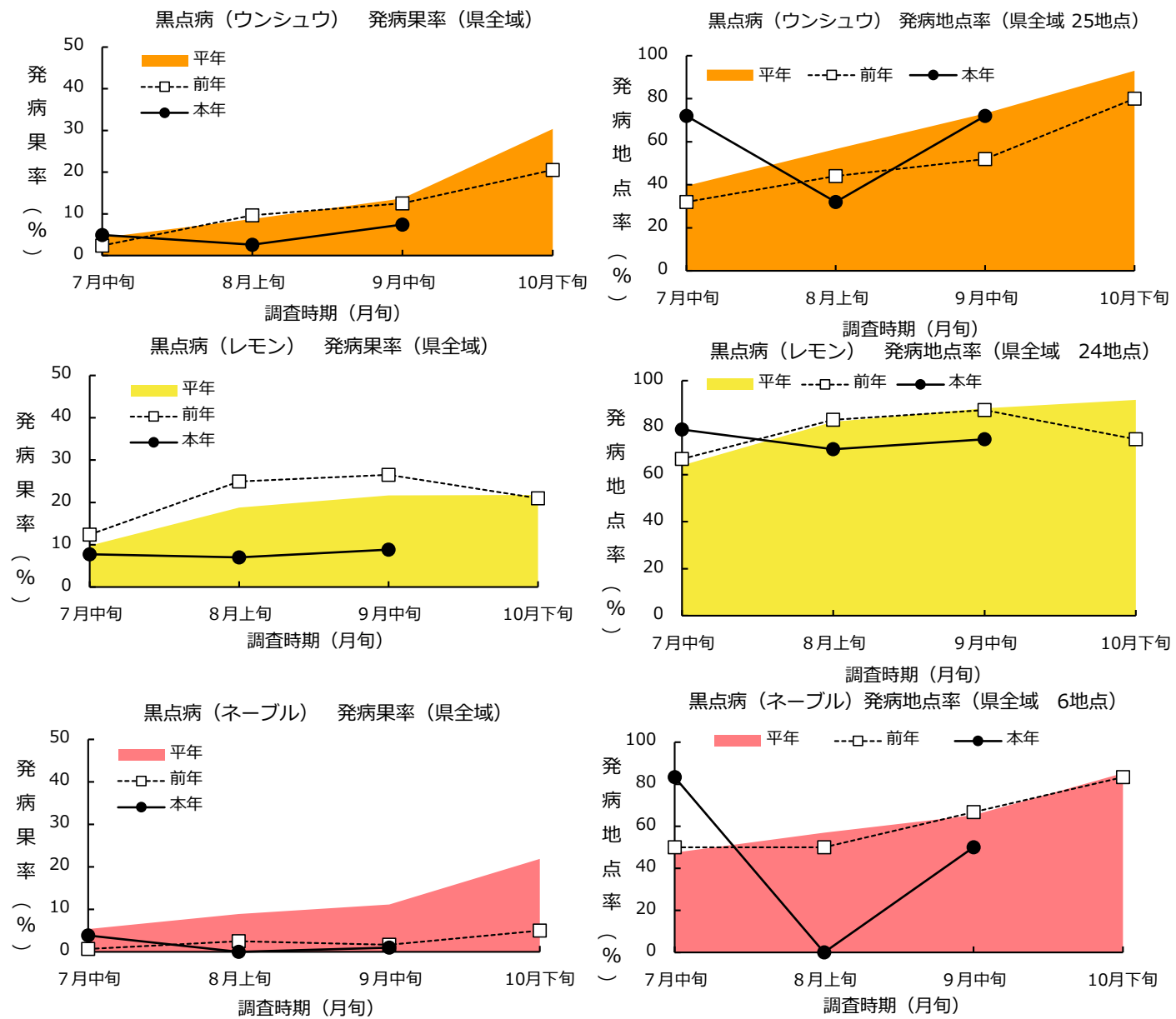
【巡回調査データ】



②黒点病	現況	やや少	予報	並
予報の根拠 (＋):多発要因 (±):平年並 (－):少発要因	●巡回調査での発病果率は、ウンシュウで7.4%（平年13.7%）、レモンで8.9%（平年21.6%）、ネーブルで1.0%（平年11.1%）であり、合計7.2%（平年17.0%）と平年よりやや少ない発生でした。 ●発病地点率は、合計70.9%（平年79.6%）と平年よりやや少ない値でした。 ●向こう1か月の降水量は、多い確率が40%です（＋）。			

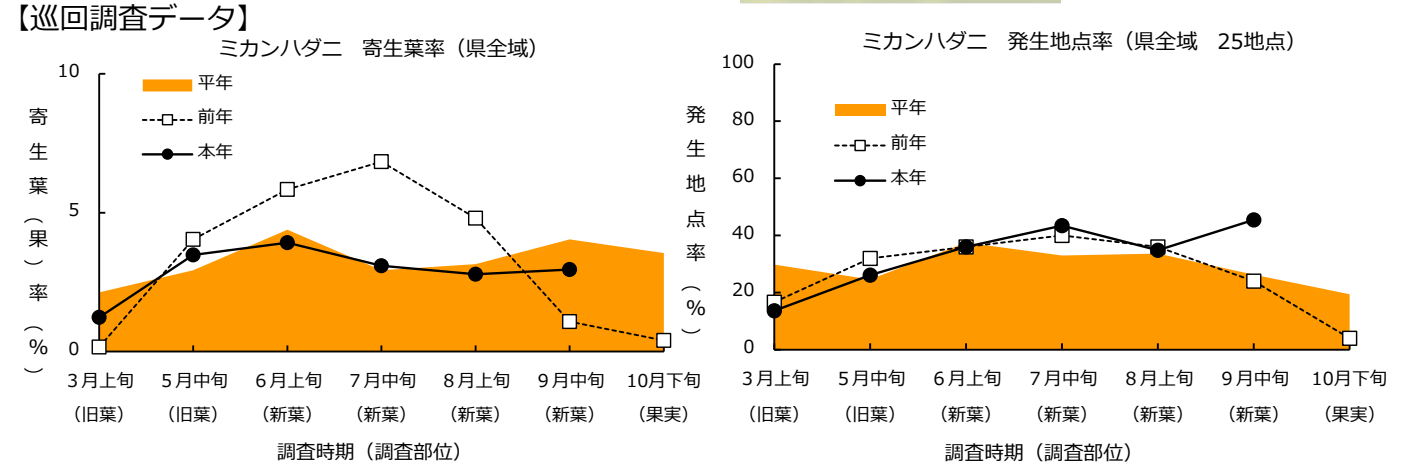
- 【防除上の注意事項】
- 伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。
 - 気象予報に注意し、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
 - 追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。

【巡回調査データ】



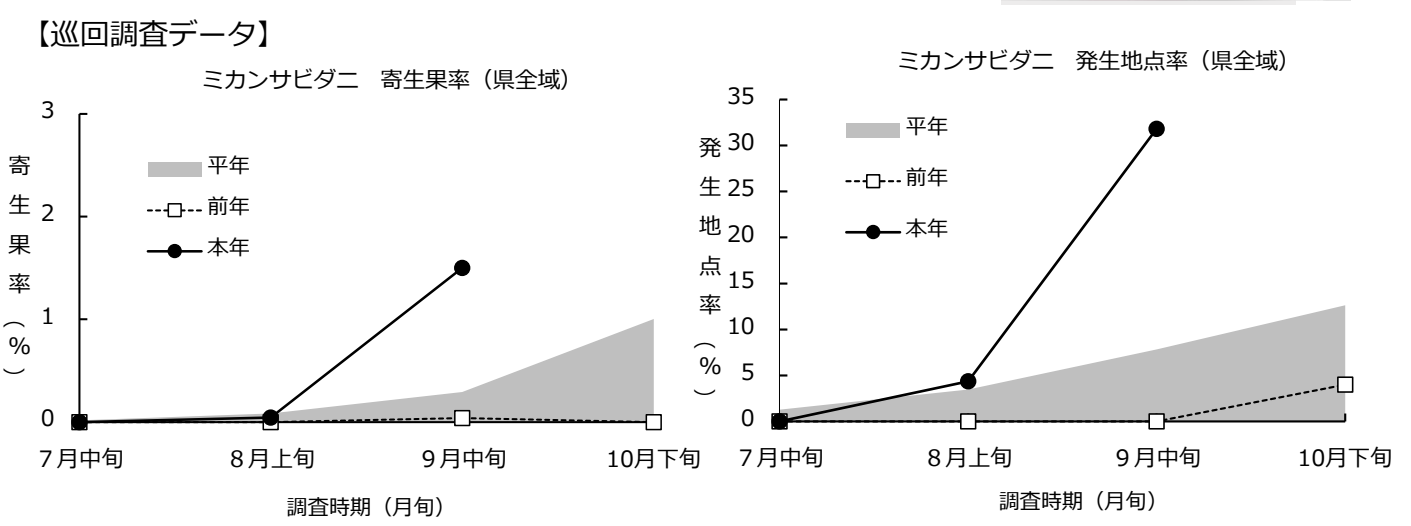
③ミカンハダニ		現況	やや多	予報	やや多
予報の根拠		●巡回調査での寄生葉率は3.0%（平年4.0%）であり、平年並の発生でした。 ●発生地点率は45.5%（平年26.2%）と平年よりやや多い値でした。 ●向こう1か月の気温は高い確率が80%（+）、降水量は多い確率が40%です（-）。			
（+）：多発要因 （±）：平年並 （-）：少発要因					

- 【防除上の注意事項】
- 果実への寄生により、外観品質を損なうため、基幹防除を徹底しましょう。
 - 薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。
 - 薬剤は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。



④ミカンサビダニ		現況	多	予報	多
予報の根拠		●巡回調査での寄生果率は、1.5%（平年0.3%）、発生地点率は31.8%（平年7.8%）とどちらも過去10年で1番高い値となりました（+）。 ●向こう1か月の気温は高い確率が80%（+）、降水量は多い確率が40%です（-）。			
（+）：多発要因 （±）：平年並 （-）：少発要因					

- 【防除上の注意事項】
- 被害の拡大を防ぐために、9月下旬～10月上旬の基幹防除を徹底しましょう。
 - 肉眼での成虫の確認は困難であり、気づかないうちに被害が拡大する可能性があります。予防散布に努めましょう。
 - 特に、裾なり、内なりの果実での発生に注意しましょう。



①果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

現況

少～並

予報の根拠

●県内におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの累積誘殺数は、9月第1半旬の時点で、少～並の結果となっています。

●今後の気温は平年より高い傾向にあり、発生が増加する可能性があるため、ほ場の定期的な見回りを行い、飛来が認められた場合は速やかに防除を実施してください。
※誘殺数の推移については、10月末まで[フェロモントラップ調査データ](#)を「ひろしま病害虫情報」に公開するので、そちらを参考にしてください。



左からチャバネアオカメムシ、
ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ

表1 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数（5月第1半旬～9月第1半旬）

設置地点	チャバネアオカメムシ累積誘殺数（頭）				
	本年	現況	平年※1	多発年※2	多発年以外※3
庄原市高野町	28.0	少	569.6	1797.3	43.4
庄原市東城町	20.0	やや少	263.6	774.1	44.8
世羅郡世羅町1	65.9	少	451.6	963.7	232.1
東広島市安芸津町	35.3	少	1255.2	3304.7	376.9
福山市神辺町	38.0	やや少	420.5	1165.7	101.1
呉市蒲刈町	26.6	並	271.0	862.2	17.7
三次市作木町※4	50.9	-	-	-	-
山県郡北広島町※4	1.0	-	-	-	-
三原市大和町※4	16.8	-	-	-	-
世羅郡世羅町2※4	220.3	-	-	-	-
尾道市瀬戸田町※4	42.6	-	-	-	-

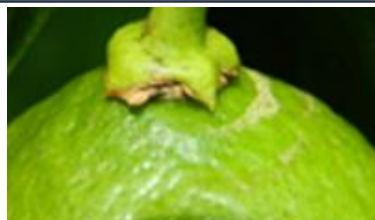
※1 各調査地点の平年とは、過去10年の平均を示す

※2 多発年とは、注意報を発表した年（令和2、4、6年）の平均値を示す

※3 多発年以外とは、平成26年以降で、令和2、4、6年を除いた年の平均値を示す

※4 令和7年からの調査開始のため、本年の誘殺数のみ記載する

②チャノキイロアザミウマ成虫発生予測



果梗部のリング状被害

チャノキイロアザミウマ
（体長0.8mm程度）

●チャノキイロアザミウマは、主に防風樹として利用されているイヌマキやサングジュなどが発生源となり、果樹園に飛来します。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなります。

●第7世代成虫の発生ピークを気温から予測すると9月20～21日、第8世代は10月15～24日です。**防除適期は7日前からピーク当日です。**

※表2を参考に、発生ピーク予測日に合わせた防除を行ってください。

表2 チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第7世代	第8世代
平年より高い（+1℃）	9月20日	10月15日
平年並	9月20日	10月19日
平年より低い（-1℃）	9月21日	10月24日

※生口島アメダスデータに基づく

(広島地方気象台 9月18日発表、9月20日から10月19日までの天候見通し)

- 天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は高い確率が80%です。降水量は多い確率が40%、日照時間も多い確率40%です(図1)。
- 向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう(図2)。

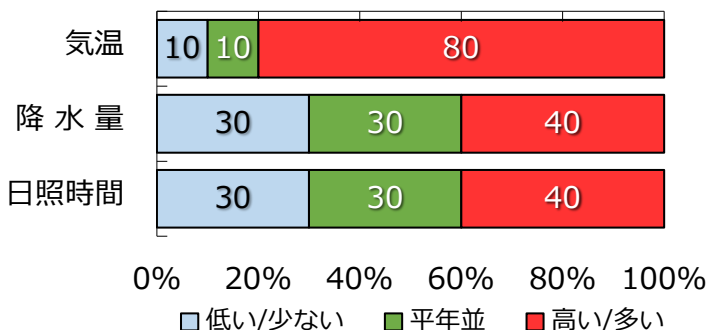


図1 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率(%)

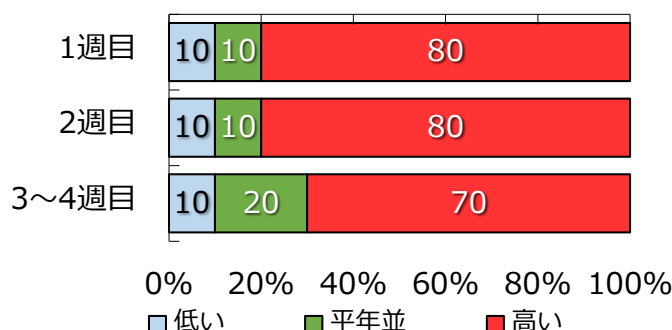


図2 向こう1か月の気温経過の各階級の確率(%)

●PCでアクセス

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報
QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662 (直通)

※次回の予報発表は令和8年3月ごろです。